

第3分科会

3歳未満児の発達と保育

子どもとともに遊び、学びそして幸せな未来へ

ディレクター名	川畠 寛子（青竜幼稚園）
司会者名	鮎川 正（木の花幼稚園）
運営委員名	吉田 宏道（自由ヶ丘幼稚園）
話題提供者	石川県 2歳児研修プロジェクトチーム 松尾 瑞希（北陸学院大学第一幼稚園） 澤谷 優衣（川上幼稚園） 佐藤 真奇（鶴来第二幼稚園） 森田 咲（金沢幼稚園）
助言者名	嶋田 容子（金沢学院短期大学 講師）
担当責任者名	渡辺 正美
会場	富山県民会館 8F 富山電気ビルレストラン
参加人数	123名

「幼児期とは異なる、0、1、2歳の独自の世界を探ってみよう！」
—幼児期の育ちと幼児期への接続とは何か？—

0、1、2歳児が経験する世界は、幼児期と大きく異なります。幼稚園教育要領には、「10の姿」が示されていますが、その「10の姿」の「手前の状態」ではなく「この時だからこそ」の経験を必要としているのです。養護と教育の一体化は、その理解の上に実現されるものだと言えます。本分科会では、0、1歳児ならではの、感覚による探索活動や音楽的なコミュニケーション、2歳児ならではの想像性や独り言などなど…0、1、2歳児の特殊性について学び、本当の意味での幼児期への接続とはどういうことか、考えます。事例解題では、0、1、2歳児の最年長である2歳児に焦点を当て、具体的な見守りや声かけ、環境作りなどについて、そして養護と教育の一体化とは実際にはどういうことなのか、グループで話し合い理解を深めます。また、0、1、2歳児の保育の実践事例を紹介し、保育の中で「当たり前」になっていることを、あらたな目で見直します。

0、1、2歳児ならではの育ちの姿とは？0、1、2歳児の育ちから見た「10の姿」を読み直し、そして当たり前と思われがちな保育の見直しを図ります。

話題提供園の発表内容について
2歳児の経験する世界をみつめる
～モノと仕切り・人との距離感との視点から～

＜モノと仕切り＞
○ 熱中できる空間づくり



- ・手作りおもちゃの良さ
→柔軟性がある
　　シンプルなものでも自由に遊びが発展できる
　　その子どもたちに応じて大きさや形を設定できる

例：せんたくばさみを使った遊び

- ・見立てと遊び…ぬいぐるみにつけ、リボンに見立てて遊ぶ
- ・洗濯物を干す遊び…ちょっとした小物の導入で生活の模倣遊びへ発展

～ ままごとをする子どもの姿から ～

- ・同じことを繰り返している
- ・窓や壁に向かった空間で熱中している
- ・リアルな道具（実際のフライ返し）を使っている

これらのことから見立てられる素材があれば良いのではと考えられる。
また、道具の大きさが子どもに応じたサイズを用意するなど、先生の細かな配慮も必要である。

- ・仕切りの必要性
→おもちゃが散らからない
　　ぱっとみて遊びのコーナーがわかりやすい
　　情報量が少なくなるので遊びに熱中できる

○ 安全と探索

～ 木の椅子を引きずって遊ぶ子どもの姿から ～
…危ない、床が傷つく、しかし子どもがしたい遊びである
→牛乳パックの椅子を作り代用する
　　硬すぎず、座ったり踏んだりしても壊れにくい、木の椅子のように
　　「ダメ」と言わなくてよい、遊びと生活のどちらでも使える

- ・2歳児のための仕切りの工夫
 - ・穴の開いた壁（段ボール）にする
 - ・透ける布で仕切る

利点：自分で形を変える面白さがある、壊れてもまた作り直せる、
壊れても危なくない

<人との距離感>

○ 人との距離感

- ・主張する子も無視する子もいる

例：積み木を繋げ、家を作つて遊ぶ

- ・ほとんど出来上がってから「わたしのおうち」と言い出す子
- ・「みんなのおうちだよね」と主張する子
- ・無視してかまわざ進める子

～ 積み木で遊ぶ他学年の子をじっと見つめている子どもの姿から ～

- ・自分なりの距離感をとつてゐる
- ・見ることで友だちや空間を探つてゐる
- ・年上の子がいなくなつた
- ・大きい子がいるときは入れないと分かつた
→見ることをやめずにいたことで、大きい子がいなくなつた後
遊ぶことが出来た

○ 広い空間・狭い空間

- ・広い空間でみられること

- ・同じ空間でも、ほかの子を無視して遊びを続ける子も多い
- ・イメージは個々にバラバラだが、繋がつてゐる
- ・見て探りながら遊んでゐる
- ・楽しいことを追求するためのタイミングや場所がある
- ・コーナーを自由に移動できる

- ・狭い空間で見られること

例：2歳児クラス 18人 + 保育者 4人

ごちゃごちゃとした雰囲気、コーナーをつくれない
→遊びこむ様子が見られない

人数が減り、広く使えるようになると・・・

→のびのび遊べる

子ども同士の関わり（同年齢、異年齢）も見られる

- ・狭い空間しか利用できないときにできる工夫を考えることが、今後の課題である。また危なくない環境を作ることも大切だが、子どもが遊びこめる環境を作ることも大切である。

グループ討議について（15グループ）

「2歳児 夢の保育室」を考える。

- ・2歳児ならではの育ちを支える保育
- ・2歳児がのびのびと遊びこめる保育
- ・物の仕切り：熱中できる空間、安全と探索
- ・人との距離感：広い空間、狭い空間

4 グループを選択



B グループ

- ・体を動かせるスペース、ゆったり静かに過ごせるスペースを可動式の棚やパテーションで仕切る。
- ・様々な質感や素材のマットを敷き、感触を楽しめるようにする。
- ・他のクラスに行き来しやすくし、異年齢交流を促す。



E グループ

- ・円形の園舎で、部屋ごとに様々な遊び（楽器、お絵かき、トランポリンなど）が楽しめる。
- ・着替えて遊べるコーナーを作り、遊びながら着脱の練習が出来る。
- ・園舎の中央に大きな木があり、自然と触れ合いながら十分に体を動かせる。



G グループ

- ・トイレの近くにオムツ棚を置き、子どもが自分でオムツを持ちトイレに向かえるなど、トイレへの導線を考える。
- ・楽しくトイレトレーニングにとりくめるよう、床に線路敷き、便器を新幹線風などにする。
- ・段ボールの仕切り、マットを使い、遊びのコーナーを分ける。



I グループ

- ・月ごとにテーマを決め、そのテーマに応じ環境を設定し、子どもの製作や遊びに繋げる。
- ・牛乳パックの仕切りでおままごとコーナーを作り、おままごとの世界に入り込めることが出来る。
- ・ドア付きの段ボールで仕切り、くつろげる

空間・体を動かせる空間を分ける。

助言者の講義について

I.0、1、2歳児の特性・・・赤ちゃんの感じる世界

感覚で探索し、感覚で遊び、学ぶ

- ① 手を伸ばす、手で探る「リーチング」
- ② 見る
- ③ 自分の体や動きを探る
- ④ 聴く
- ⑤ さわる・嗅ぐ・味わう

☆安全と探索のバランスの取れる環境づくりが必要

☆「やりたがること」のなかに「今、学んでいること」がある

☆意欲や意志、やろうとする気持ちを尊重する

「教える」のではなく、手を出さないで見守る

☆「共に見る」ことが記憶や言葉の学びを助ける（共同注意）

☆「発達の最近接領域」とのかかわり

☆声と声のコミュニケーション

・子どもの声に心地よい声を返す・逆模範も効果的

・子どもの一語文に言葉をそえて、応用的に

II.2歳児ならではの世界

- ・自己主張→自分を「意識」し始める
- ・鏡を見て「自分」だと認識する
- ・「自己中心的」な世界観→他の人も自分と同じように見える、感じると思う
- ・想像上の「友だち」など、想像世界の広がり
- ・見立てあそび、ごっこあそび
- ・着脱の自立、排せつの自立

ガマンや切り替えの能力は未熟

根気と持続力のめばえる時期→根気強く遊びこめる環境

☆「第一次反抗期」のイヤイヤと主張は、自立心の芽生え

☆二次的感情（恥・誇り）のめばえ

☆人の行動を「まねる」ことで学ぶ→大人が思うような結果を求める

☆自分で動く・動かせるということ、「自分でできる」という経験が大切

III. 10の姿と乳児の育ち

「10の姿」は0、1、2歳児保育でどう読み替えるべきか

→どんな接続ができるか

感覚遊び/五感による探索/モノや周辺の世界との出会い/共感・共鳴

共同注意/自己の形成/声のコミュニケーション/身体や運動の探索

0, 1, 2歳児の発達の理論を、どうやって保育の中の“暮らしの形”にしていけばよいか？私にとっても新鮮な学びでした。今後も共に学び合えればと思います。